

足ラズ我等ノ先輩ハ既ニ西比利亞ニ於テ將又滿洲ニ於テ之ヲ立證セリ

冬季陣中ノ心得ニ就テハ上官ヨリ懇切ナル教示アルベク必ズ之等教示ヲ體シテ誤ラザルハ勿論ナルモ一人ノ不注意廣シ部隊全般ニ累ヲ及ボスコトアルヲ以テ主トシテ個人衛生ニ關スル事項ヲ簡明ニ摘記シテ陣中ノ嗜ミニ資セントス常住坐臥身邊ヨリ離サズ酷寒ヲ克服シテノ御奉公ニ缺クルコト勿レ

第一 被服著装上ノ注意

- 一、破損セル防寒被服ハ凍傷ノ原因トナルヲ以テ之ガ綿密ナル點檢ヲ行ヒ常ニ完全ナル状態ニ保持スルコト
- 二、衣袴ハ寛裕ニシテ破綻ナク釦ハ確實ニ堅著スルコト
- 三、軍靴ハ常ニ手入ヲ十分ニシ革ハ柔軟ニシテ特ニ後半部ノ屈伸ヲ自在ナラシムルコト
- 又趾部ノ壓迫及靴底周縁部ノ少破綻等ヲ看過セザルコト
- 使用セザル間ハ藁又ハ新聞紙ヲ挿入シ濕氣ヲ去ルコト
- 四、靴下ハ防寒靴下ノ外側ニ綿製ノ靴下ヲ併用シ二枚トスルコト

被服著装上ノ注意

三

- 註 三枚以上使用スルトキハ却ツテ中層ノモノニ皺ヲ生ジ靴傷ノ原因トナリ血行ヲ阻碍シ凍傷ノ原因ヲナスコト多シ
- 五、眼簾ハ雪盲ノ豫防上必要ナルノミナラズ吹雪ニ面シテ行動スルトキ其ノ價值大ナルヲ以テ之ヲ利用スルコト
 - 顔面ノ凍傷豫防上風ニ面シテ行動スル場合ハ要スレバ防風面、防塵眼鏡ヲ使用スルコト
 - 六、防寒被服ヲ完全ナル状態ニ在ラシムレバ防寒目的ヲ達成シ得ベシ左ノ如キ保温處置ヲ講ズレバ更ニ有效ナリ
 1. 現制ノ短キ防寒大手手套軍衣トノ間ニハ間隙ヲ生ジ且轉

- 倒等ニヨリ雪浸入シ易キヲ以テ該部ニ幅約八釐、長サ約七十釐ノ木綿ヲ卷キツケルコト
- 降雪又ハ強風ノ場合ニハ防寒大手手套ノ口ヲ絞リ得ル如ク豫メ處置スルコト
2. 一枚ノ新聞紙ヲ四ツ折トナシ軍衣ト防寒襦袢トノ間ニ胸部及背部ニ各々一枚宛挿入スルコト
 3. 耳内ニ脱脂綿ヲ輕ク挿入スルコト
 4. 防寒頭巾ノ開口部ノ下部ニ手拭ヲ縫ヒ付ケ或ハ狭ミ之ヲ以テ鼻迄覆フコト
 5. 騎乘、乗車（乗檣）間ニ於テハ真綿ニ足部前半ニ纏ヒ或

被服著装上ノ注意

五

註 三枚以上使用スルトキハ却ツテ中層ノモノニ皺ヲ生ジ靴傷ノ原因トナリ血行ヲ阻碍シ凍傷ノ原因ヲナスコト多シ

- 五、眼簾ハ雪盲ノ豫防上必要ナルノミナラズ吹雪ニ面シテ行動スルトキ其ノ價值大ナルヲ以テ之ヲ利用スルコト
- 六、防寒被服ヲ完全ナル状態ニ在ラシムレバ防寒目的ヲ達成シ得ベシ左ノ如キ保温處置ヲ講ズレバ更ニ有效ナリ
- 1. 現制ノ短キ防寒大手套ト軍衣トノ間ニハ間隙ヲ生ジ且轉

- 倒等ニヨリ雪浸入シ易キヲ以テ該部ニ幅約八糎、長サ約七十糎ノ木綿ヲ卷キツケルコト
- 降雪又ハ強風ノ場合ニハ防寒大手套ノ口ヲ絞リ得ル如ク豫メ處置スルコト
- 2. 一枚ノ新聞紙ヲ四ツ折トナシ軍衣ト防寒襦袢トノ間ニ胸部及背部ニ各々一枚宛挿入スルコト
- 3. 耳内ニ脱脂綿ヲ輕ク挿入スルコト
- 4. 防寒頭巾ノ開口部ノ下部ニ手拭ヲ縫ヒ付ケ或ハ狭ミ之ヲ以テ鼻迄覆フコト
- 5. 騎乗、乗車（乗櫓）間ニ於テハ真綿ヲ足部前半ニ纏ヒ或

第二 行軍上ノ注意

- 一、行軍中屢々軍靴ノ踵ニ凍土及雪塊附着シテ歩行ヲ妨ゲ靴傷及捻挫ヲ起スコトアルヲ以テ之ガ除去ニ勉ムルコト
- 二、凍リタル靴ヲ穿キ行軍スルトキハ靴傷ヲ起スヲ以テ舍營又ハ休憩ノ際靴ヲ脱ギタルトキハ凍ラザル如クスルコト
- 三、水氣ノ靴内ニ浸入シ又ハ發汗ノ爲ニ靴下濕潤セバ休憩間爲シ得レバ速カニ之ヲ穿換フルコト
- 四、發汗セシ場合ト雖モ直接冷氣ニ觸レシメザルコト
- 氷雪上ニ直接腰ヲ下サザルコト

- 五、休憩間居眠ハ凍傷ノ原因トナリ暗夜特ニ疲勞増加スルニ伴ヒ益々甚ダシキヲ以テ居睡セザルコト
- 六、休憩ニ方リテハ急ニベーチ力又ハ焚火等ニ接近スルコトナク先ヅ手、顔等ヲ克ク摩擦シタル後暖ヲ採ルコト
- 七、氷上ニ在リテハ上體ヲ少シク前ニ傾ケ膝ヲ僅カニ屈シ歩幅ヲ狭クシ歩度ヲ早メテ輕ク足尖ニテ踏ミ切り足蹠特ニ踵ノ部ニ力ヲ入レズ體重ハ常ニ足尖ニ移ス如ク歩行スルコト
- 八、早朝洗面後間モナク出發セザルベカラザルトキハ洗面セズ含嗽ノミニ止ムルコト
- 九、水流中ニ墜落セザル如ク油斷ナク行動スルコト

- 一、凍傷常識……………一八
- 二、凍傷豫防ノ要訣……………二〇
- 三、凍傷豫防ノ直接對策……………二二
- 四、凍傷ニ對スル應急處置……………二六

冬季陣中必携(兵用)目次 終

冬季陣中必携(兵用)

緒言

滿洲ノ寒氣ハ内地ノ實感ヲ以テ推測スル能ハズ内地ノ所謂凍傷(シモヤケ)即滿洲ノ凍傷ナリトスルハ甚ダシキ過誤ナリ防寒處置ニ於テ缺クルコトアランカ忽チ戰鬥力ヲ失フノミナラズ延イテハオ役ニ立ツベキ身命ヲ空シク曠野ニサラスニ至ル洵ニ心スベキナリ

然レドモ之ガ對應ノ處置ニ於テ當ヲ得ンカ極寒敢ヘテ恐ル、ニ

- 一、凍傷常識……………一八
- 二、凍傷豫防ノ要訣……………二〇
- 三、凍傷豫防ノ直接對策……………二二
- 四、凍傷ニ對スル應急處置……………二六

冬季陣中必携(兵用)目次 終

冬季陣中必携(兵用)

緒言

滿洲ノ寒氣ハ内地ノ實感ヲ以テ推測スル能ハズ内地ノ所謂凍傷(シモヤケ)即滿洲ノ凍傷ナリトスルハ甚ダシキ過誤ナリ防寒處置ニ於テ缺クルコトアランカ忽チ戰鬥力ヲ失フノミナラズ延イテハオ役ニ立ツベキ身命ヲ空シク曠野ニサラスニ至ル洵ニ心スベキナリ

然レドモ之ガ對應ノ處置ニ於テ當ヲ得ンカ極寒敢ヘテ恐ル、ニ

因トナルベシ而シテ又換氣ヲ忘ラザルコト必要ナリ

三、ストーブノ火ニ氣ヲ付ケヨ火ヲ絶チテ凍傷、感冒ノ因ヲ作リ不注意ニ依リ火災ヲ起シ又ハ被服類ヲ焦サザルコト

四、小銃、重機銃、擲彈筒、通信器材等ハ幕舎外ニ置クヲ可トス若シ舎内ニ持込ミタルトキハ屢々拭淨シテ結露セシメザルコト

五、幕舎ニ入ルヤ速カニ靴ノ雪ヲ拂ヒテ乾燥セシメ皮ハ柔軟ニナリタル後革油ヲ用フルコト

敷革ハ必ず取出シ乾燥セシムルコト又幕舎外ニ出ヅル際ニハ靴ヲ一度冷却セシメタル後ニスルコト然ラザレバ靴底凍結シ

テ滑ルコトアリ

六、飯盒等ハ煙突ノ吊具ニ掛ケ直接煖爐上ニ置カザルコト又空ノ儘煖爐上ニ置クトキハ溶解シテ原形ヲ止メザルニ至ル

第四 満人家屋利用ノ注意

満人家屋ハ通常温突、ペーチカ又ハ煖爐等ノ煖房装置ヲ有シ保温概ネ良好ニシテ其ノ收容力亦大ナルヲ以テ利用價值大ナルモ利用上ノ注意事項左ノ如シ

一、支那炕使用上ノ注意

1. 炕ヲ使用スルトキハ防寒外套ノミヲ以テ就寝スルコトヲ

満人家屋利用上ノ注意

第五 「ロシヤ」家屋ノ

ペーチカ利用上ノ注意

一、構造及用法ヲ詳カニシタル後使用スルヲ要ス然ラザレバ燃料不經濟ナルノミナラズ火災又ハ瓦斯中毒ノ危険アリ

二、ペーチカハ通常一時ニ大量ノ石炭ヲ投入シテ燃焼セシメ少量ヲ逐次ニ燃焼セシムルトキハ温度上ラズ

三、ペーチカノ火止飯ハ瓦斯中毒ノ豫防上全閉セザルヲ安全トス尙瓦斯ノ洩出ニ注意スベシ

第六 給 養

一、温食、温湯給養ハ活力保持ノ第一義ナリ

二、給養ハ冬季行動ノ重要事ナリ從ツテ給養區分ハ上官ノ指示ヲ嚴守スルト共ニ常ニ若干ノ豫備ヲ控置スルコト絶對ニ必要ナリ行動途中ニ於テ過早ニ携帶糧食ヲ使用シ盡シタル爲凍死ノ因ヲナシタル實例尠カラズ不測ノ事態ニ備フル嗜ト知ルベシ

三、水ヲ得ルコト困難ナルトキハ雪ヲ融カシテ使用スルコト但シ雪ノ儘食セザルコト

給 養

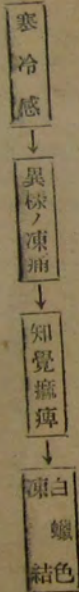
第七 凍傷豫防

北滿及西伯利亞ニ於ケル凍傷ハ内地ニ於ケルモノトハ全ク其ノ趣ヲ異ニシ時ニ多發シ且忽ニシテ重症ニ陥リ戦力ヲ消耗スルコト極メテ大ナリ苟モ自己ノ不注意ニ依リ凍傷ニ罹ルガ如キコトナキヲ期スルト共ニ積極的ニ耐寒訓練ヲ重ネ冬季最大ノ敵タル凍傷ヲ克服セザルベカラズ

一、凍傷常識

1. 凍傷ノ原因ハ體熱喪失ニ在リ從ツテ鼻尖、耳殼、手指及足趾ハ最モ凍傷ニ罹リ易キ部位ナリ

2. 體熱喪失ヲ促進スル因子ハ低溫ノ外防寒被服ノ不備、皮膚及被服ノ濕潤、血行障礙等ナリ
3. 防寒被服ハ保温ニ、食餌ハ體熱ノ補充ニ、血液循環ハ凍傷好發部ヘノ補充熱輸送ニ夫々役立つモノナリ
4. 凍傷罹患ノ經過



5. 凍傷ノ症状ヲ分チテ次ノ三種トナス
イ、輕度ナルモノ
凍結ニ陥レル部分赤ク腫脹シ搔痒ヲ感ズルノミニテ後害

3. 顔面保護

- ハ、防寒手袋ノ破綻濕潤ヲ豫防スルコト
 - ニ、爲シ得レバ懐爐ヲ袴ノ物入又ハ大手袋ノ内ニ携帯スルコト
 - イ、防寒帽垂ヲ適宜垂下シテ使用スルコト要スレバ其ノ耳覆留釦ヲ嵌メ保護スルコト
- 註 耳覆留釦ハ外シ易ク一旦脱釦スレバ嵌留釦勿ナラザル爲放置シ耳部凍傷ノ因トナルコトアリ
- ロ、防寒覆面ノ被リ方ニ注意シ防寒外套ノ襟ヲ立テテ之ヲ締メ防寒帽ノ垂ヲ後方ニ垂ルル等頸ノ保護ヲ確實ニスル

- ハ、寒氣甚ダシキトキハ羅紗、フランネル等適宜ノ材料ヲ以テ眼以外ノ顔面全部ヲ覆ヒ之ヲ保護スルコト
- ニ、寒氣ノ刺戟ニ依リ鼻汁ノ分泌多ク又呼氣髭ニ附キテ凍結スルヲ以テ屢々拭フコト
- ホ、吹雪ニ面シテ行動スルトキハ眼簾ヲ使用スルコト要スレバ防風面、防塵眼鏡ヲ使用スルコト
4. 陰部保護
イ、放尿ハ必ズ風向ニ反シテ行フコト
ロ、袴、防寒半袴ノ爲排尿ヲ妨グ残尿ヲ袴内ニ漏スコトナ

凍傷預防

二二

虞アルヲ以テ外方靴下ヲ外方ニ折り靴ヲ覆フ如クシ雪ノ
 浸入ヲ防止スルヲ可トス
 ホ、給水、炊事、水與等ニ際シ水ノ浸潤ヲ防グコト又濕潤
 セシ場合ハ直チニ拭フコト
 ヘ、靴下ノ濕潤ハ凍傷ノ主因ナルヲ以テ濕潤セバ速カニ交
 換スルコト
 ト、知覺鈍癩シタル足部ヲ大休止、宿營等ニ際シ靴下乾燥
 ヲ理由トシ直火ニ採暖スベカラズ先ヅ足關節運動、足踏、
 一地跳躍、足趾屈伸運動等ニヨリ十分血行乃至知覺ヲ恢
 復セシメタル後ニ於テ暖ヲ採ルヲ要ス

凍傷預防

二三

チ、騎乗、乗櫓、或ハ長ク停止シ足部ニ凍痛ヲ感ズルトキ
 ハ適切ナル牽馬運動、足踏、足指ノ屈伸運動等ヲ行フコト
 リ、自動車、櫓等ニ搭乘スルトキハ毛布ヲ以テ膝及足部ヲ
 包ミ且足下ニ枯草、藁等ヲ敷キ自動車ノ覆ニハ其ノ内側
 ニ毛布ヲ用フレバ有效ナリ
 2. 手部保護
 イ、汲水、炊事、水與ノ際ハゴム製ノ手袋ヲ使用シ手部ノ
 濕潤セザル如ク注意スルコト、濡レタルトキハ直チニ拭
 ヒテ乾カスコト
 ロ、金屬性物體ヲ裸手ニテ握ラザルコト

凍傷預防

二四

ハ、防寒手袋ノ破綻濕潤ヲ豫防スルコト
 ニ、爲シ得レバ懷爐ヲ袴ノ物入又ハ大手袋ノ内ニ携帯スル
 コト
 3. 顔面保護
 イ、防寒帽垂ヲ適宜垂下シテ使用スルコト要スレバ其ノ耳
 覆留釦ヲ嵌メ保護スルコト
 註 耳覆留釦ハ外シ易ク一旦脱釦スレバ嵌留釦ヲナラザル爲放散シ耳部凍傷ノ
 因トナルコトアリ
 ロ、防寒覆面ノ被リ方ニ注意シ防寒外套ノ襟ヲ立テテ之ヲ
 締メ防寒帽ノ垂ヲ後方ニ垂ルル等頸ノ保護ヲ確實ニスル

凍傷預防

二五

コト
 ハ、寒氣甚ダシキトキハ羅紗、フランネル等適宜ノ材料ヲ
 以テ眼以外ノ顔面全部ヲ覆ヒ之ヲ保護スルコト
 ニ、寒氣ノ刺戟ニ依リ鼻汁ノ分泌多ク又呼氣髭ニ附キテ凍
 結スルヲ以テ屢々拭フコト
 ホ、吹雪ニ面シテ行動スルトキハ眼簾ヲ使用スルコト
 要スレバ防風面、防塵眼鏡ヲ使用スルコト
 4. 陰部保護
 イ、放尿ハ必ズ風向ニ反シテ行フコト
 ロ、袴、防寒半袴ノ爲排尿ヲ妨グ殘尿ヲ袴内ニ漏スコトナ

キ様注意スルコト又卸ヲ嵌ムルコトヲ忘レザルコト
ハ、乗馬者ハ褌以外ニ適當ナルモノヲ以テ陰部ノ冷却ヲ豫
防シ置クコト

5. 其ノ他注意スベキ事項

イ、防寒被服ハ絶エズ破綻ノ有無及著装法ヲ點檢スルコト
ロ、凍傷豫防膏ハ之ヲ罹患シ易キ部位ニ豫メ塗布スルコト
ハ、鼻、耳、頬、手指及足趾ハ凍傷ニ罹リ易キ部位ナリ故
ニ凍痛ヲ感ズルトキハ鼻、耳、手等ニ在リテハ絶エズ摩
擦シ足ニ在リテハ足踏等ヲ行フコト
ニ、寒氣ニ曝サレタル後温度高キ室内ニ入ラントスルトキ

ハ先ヅ室外ニ於テ冷却セル局部ヲ十分摩擦スルコト

ホ、防寒被服濕潤スルトキハ凍傷又ハ感冒ノ原因トナリ易
キヲ以テ速カニ之ヲ乾燥スルコト

ヘ、凍傷ハ自覺セズシテ罹患スルコト多キヲ以テ時々點檢
シテ早期發見ニ勉ムルコト

6. 傷病者ハ特ニ凍傷ニ罹リ易キヲ以テ傷病者ヲ輸送スルニ

ハ脱靴セシメ防寒外套ニテ包ミ又數個ノ懷爐ヲ入レ更ニ毛
布ニテ良ク包ミ顔面ハ毛布ニテ覆フ等保温ノ處置ヲ十分ナ
ラシムルヲ要ス、止血帶、繃帶等ヲ施シタル患肢ハ特ニ凍
傷ニ罹リ易キヲ以テ注意ノ要アリ 橇ニテ患者ヲ輸送スル

ニ方リテハ特ニ干草等ヲ敷キテ反動ヲ緩和シ綱ニテ毛布ノ
上ヨリ患者ヲ固定シ顛落ヲ豫防スルヲ要ス

四、凍傷ニ對スル應急處置

1. 應急處置ノ要訣ハ未ダ凍結ニ至ラザル凍痛時ニ處置スベ
キモノトス 一旦凍結ニ陥ランカ之ガ處置ニ長時間ヲ要シ
場合ニ依リテハ多數ノ人員ヲ必要トスレバナリ

2. 凍痛發見時ニ於ケル處置

凍痛増強スルヤ直チニ左ノ救急處置ヲ實施スルトキハ極メ
テ容易ニ之ヲ緩解セシメ得

イ、鼻及耳ニ凍痛ヲ感ジタルトキハ直チニ手袋ヲ装シタル

儘摩擦スルコト

ロ、手指部ニ凍痛ヲ感ジタルトキハ手袋ヲ装シタル儘握リ
締メ運動ヲナスカ或ハ兩手ヲ以テ互ニ摩擦シ要スレバ防
寒外套ノ切隠ヨリ袴ノ物入ニ挿入シ保温スルコト(握リ
翠丸)

ハ、足趾ノトキハ靴内ニ於テ足趾ノ運動ヲ行フカ或ハ足踏

運動ヲ實施シ被服ノ狹小、濕潤等ノ諸因ヲ認メタルトキ
ハ直チニ之ガ排除ニ勉ムルコト

3. 白蠟色ニ凍結凝固セルトキノ處置

凍痛期既ニ去リ凍結ニ至リ始メテ發見セルトキハ直チニ風